

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和7年 6月 20日

岩手県知事  
達増 拓也 殿

提出者  
住 所 岩手県大船渡市盛町字二本杵5番  
氏 名 株式会社アマタケ  
代表取締役 甘竹 秀企  
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)  
電話番号 0192-26-5205

岩手県循環型地域社会の形成に関する条例第9条の2第1項の規定により、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社アマタケ 大船渡工場
事業場の所在地	岩手県大船渡市盛町字二本杵5番
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	091 畜産食料品製造業
②事業の規模	令和7年度 食鳥処理羽数 403万羽、食鳥処理重量 11093トン (令和6年度比 食鳥処理羽数 87.4%、食鳥処理重量 90.6%)
③従業員数	製造部門 160名(令和7年4月)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙の通り

(日本工業規格 A列4番)



## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)  
別紙の通り

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（                      年度）実績】 別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	排      出      量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】 別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	排      出      量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙の通り
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙の通り

## (第3面)

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（                      年度）実績】別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（                      年度）実績】 別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】      別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## (第4面)

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（                      年度）実績】別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（                      年度）実績】別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 この様式は、前年度の産業廃棄物の発生量が500トン以上1,000トン未満の事業所ごとに1枚作成し、岩手県循環型地域社会の形成に関する条例施行規則第3条の2の基準に従って作成した産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画に添えて提出すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

# 準多量排出事業者の産業廃棄物処理計画書

事業場の名称:株式会社アマタケ 大船渡工場

提出者 株式会社アマタケ

## 1.会社の概要

### (1)会社名

株式会社 アマタケ

### (2)資本金

1 億円

### (3)従業員数

448 名(令和 7 年 4 月)

当社の環境への取り組みについては、下記 HP 参照のこと。

(ホームページアドレス <http://www.amatake.co.jp/>)

## 2.計画期間

令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで(1 年間)

## 3、当該事業場において現に行っている事業の概要

### (1)従業員数

1670 名(令和 7 年 4 月)

### (2)製造品出荷額等

令和7年度 食鳥処理羽数 403万羽、食鳥処理重量 11093トン

### (3)製造概要

大船渡工場では、弊社農場部門において飼育された鶏を仕入れ、これを処理加工し鶏肉製品として出荷する。また、焼き鳥等の二次加工品、弊社関連会社で製造した鴨肉のスライス品等を製造・出荷する。

### (5)事業展望

今年度の令和 6 年度比 食鳥処理羽数 87.4%、食鳥処理重量 90.6%になる予定である。

### (6)連絡先

株式会社アマタケ 岩手オフィス

品質管理部 品質管理 1 課

TEL:0192-26-5205 Fax:0192-27-6234

(7)生産工程等フロー図

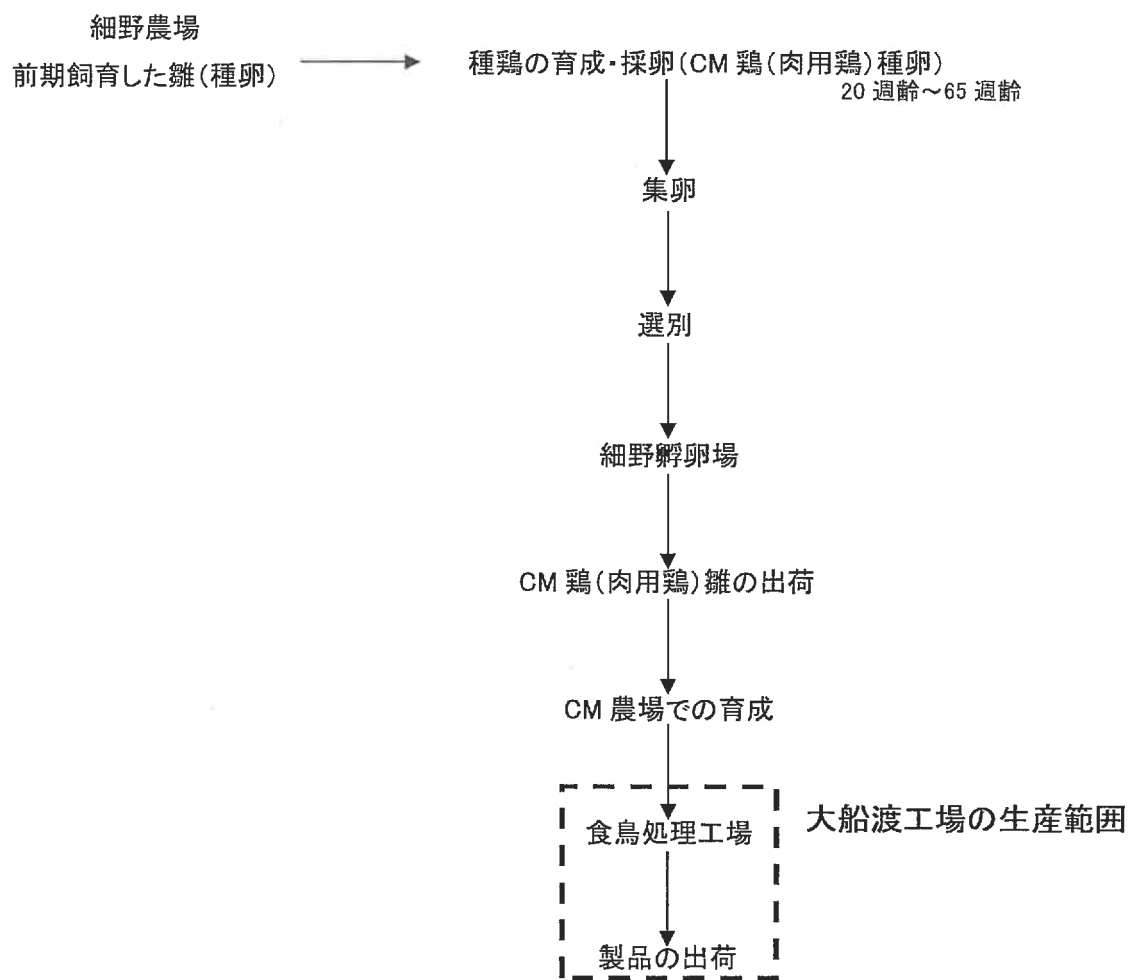


図 1:生産フロー図

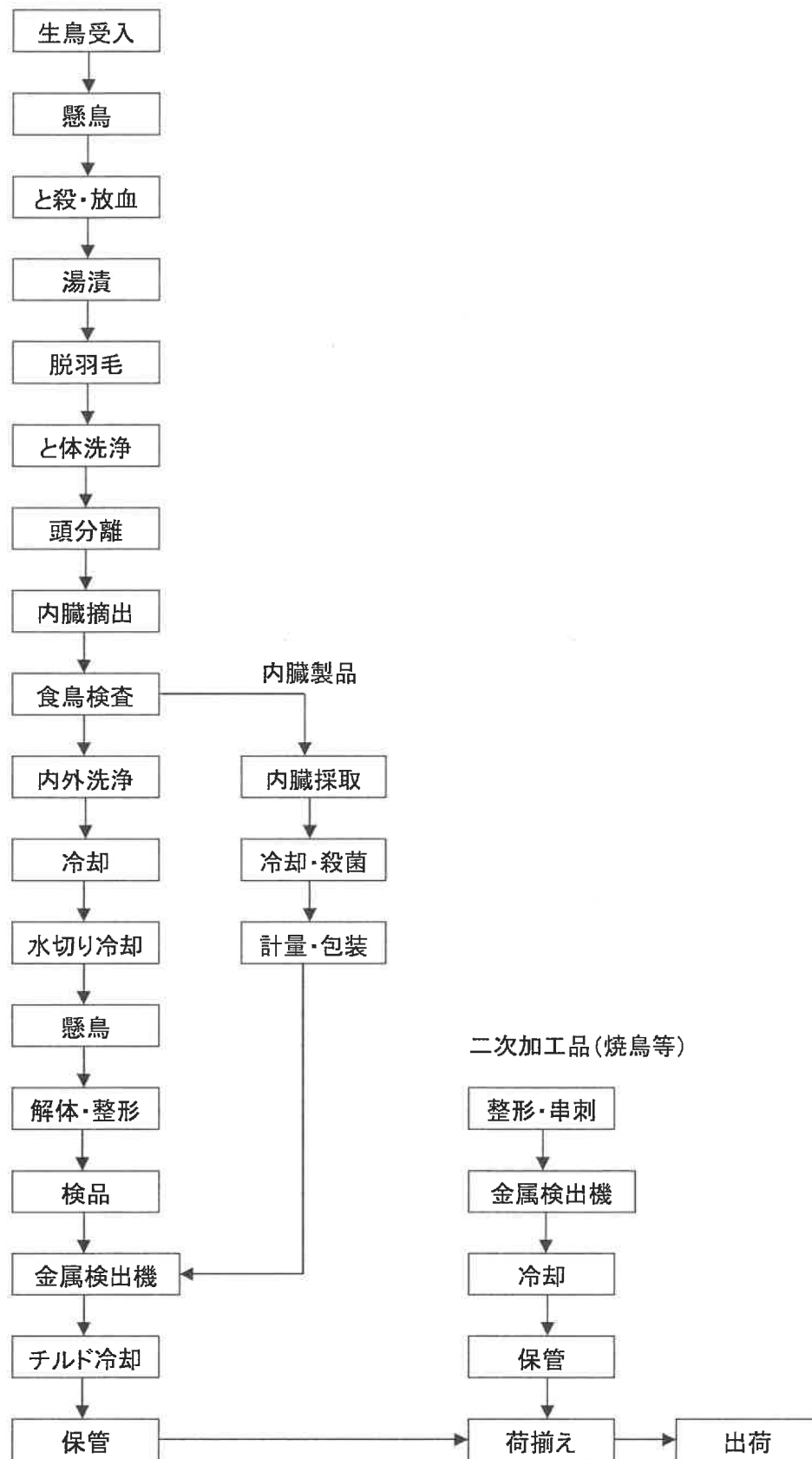


図 2: 本社工場製造フロー(生肉製品)

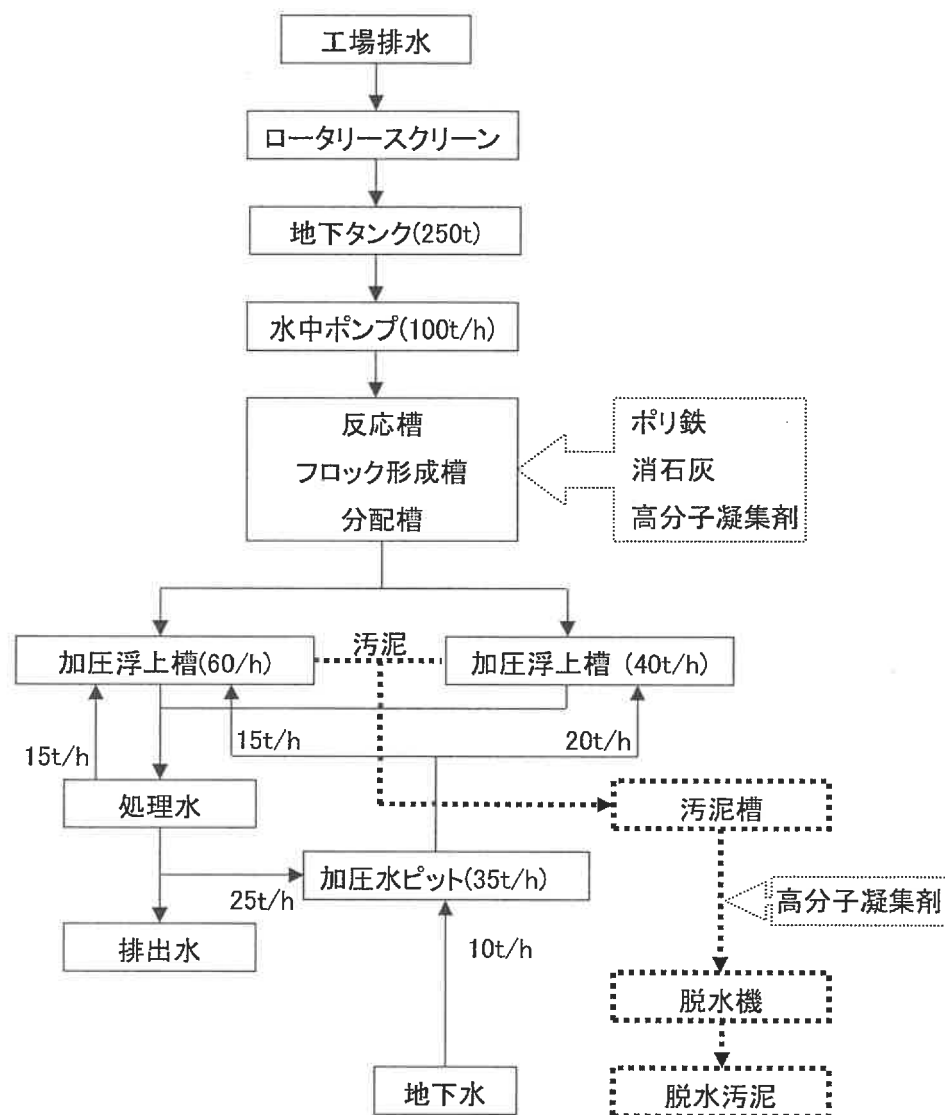


図 3: 排水処理フロー

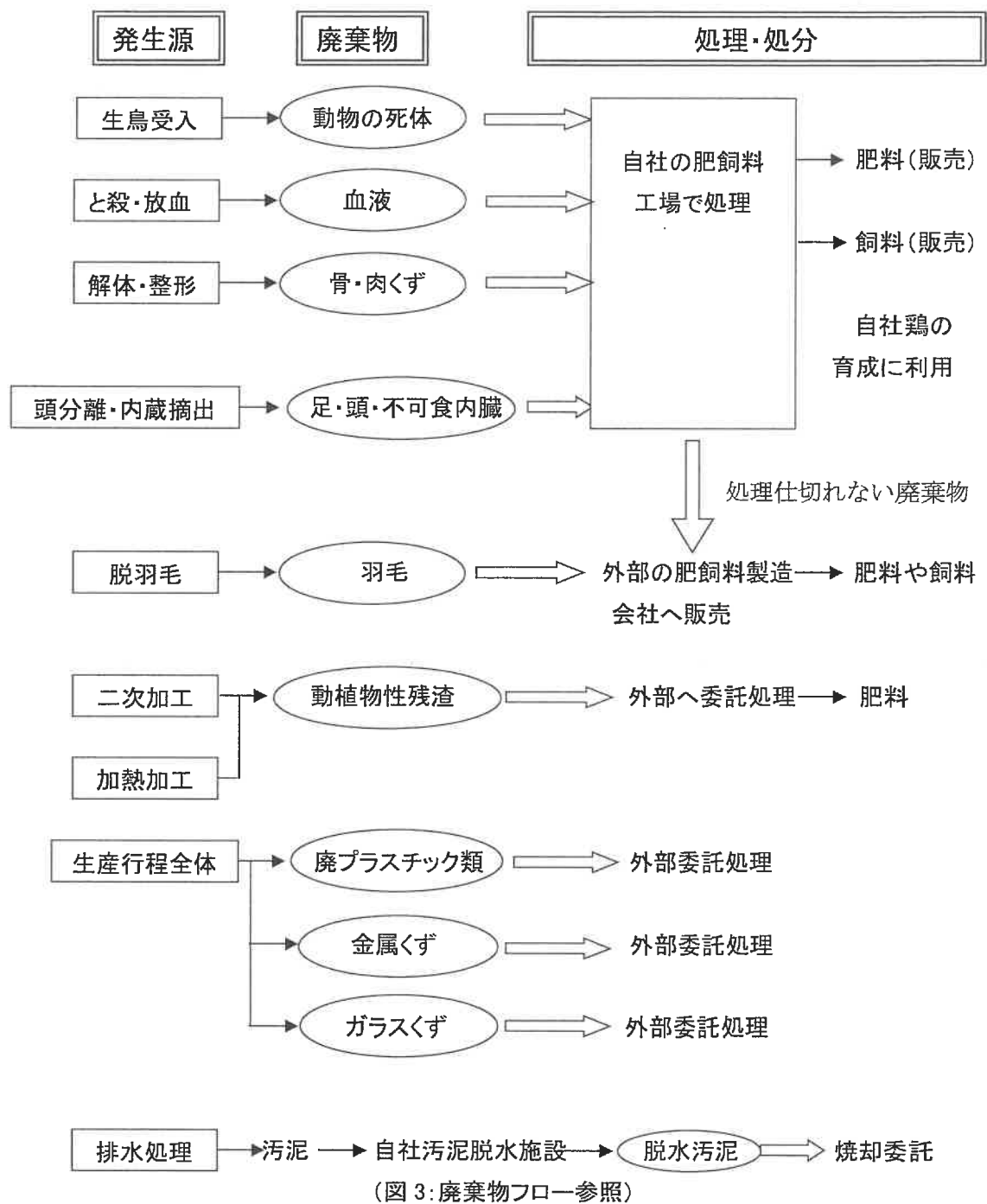
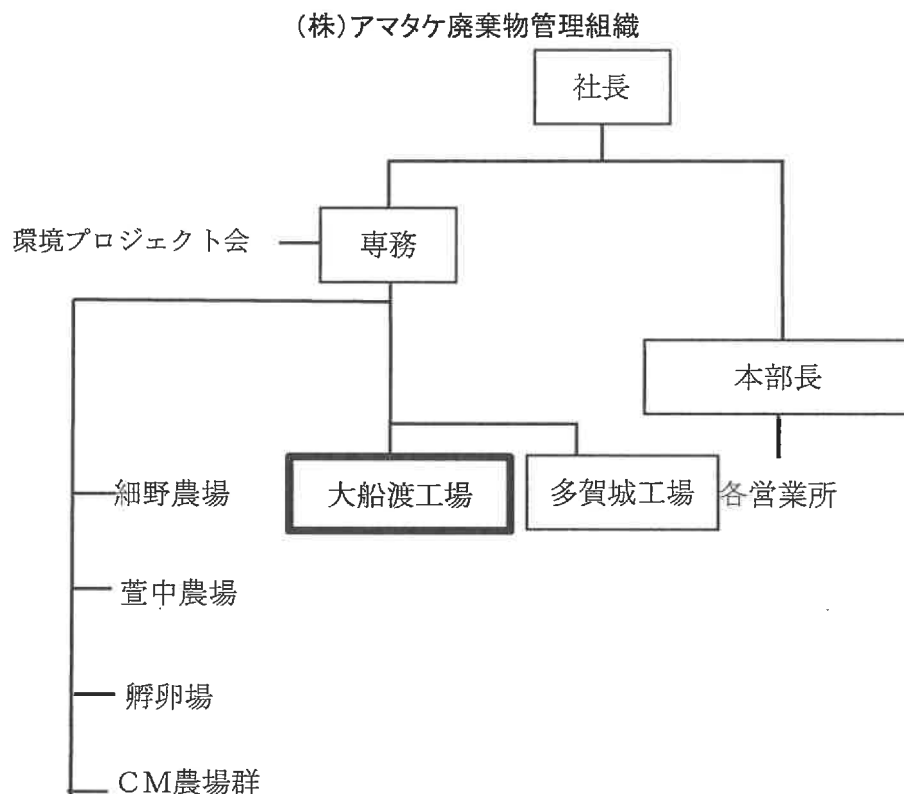


図 4: 廃棄物処理フロー

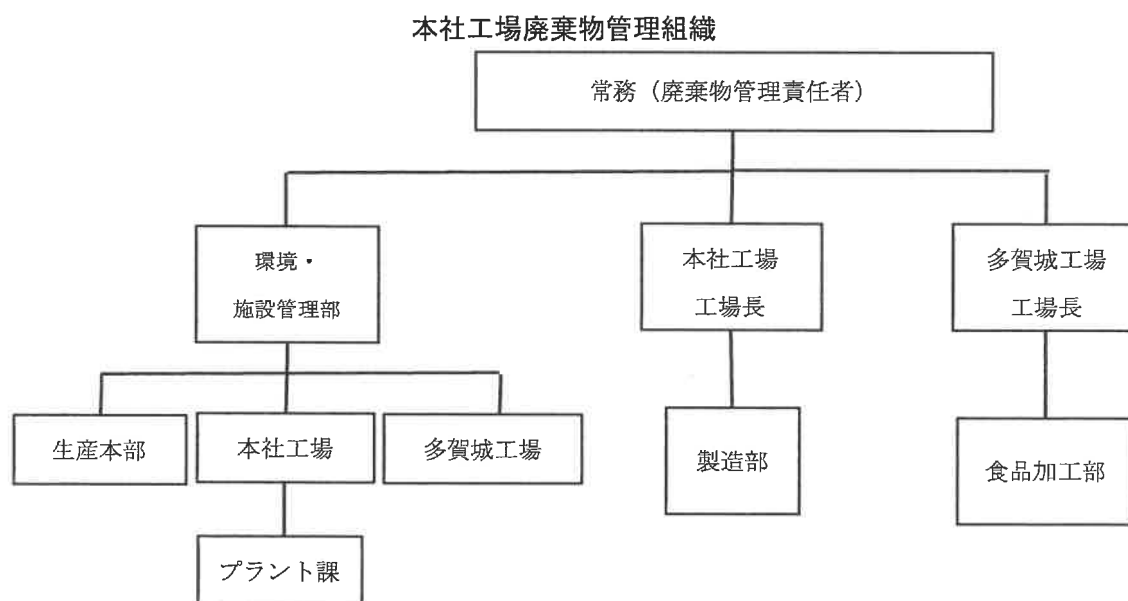
#### 4. 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

##### (1) 責任者及び管理組織図

###### ① 全社体制



###### ② 事業所体制



統括責任者: 製造統括常務

## 5. 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

表 5-1 産業廃棄物の令和 6 年度発生量と令和 7 年度目標値

廃棄物の種類	発生量(令和 6 年度実績) t/年	令和 7 年度目標値 t/年
脱水汚泥	530.7	480.8
動植物性残渣	5.4	4.9
廃プラスチック類	38.2	34.6
金属くず	6.2	5.6
ガラスくず	0.4	0.4
合計	580.9	526.3

当工場から発生する産業廃棄物は鶏肉の処理、二次加工の製造時に発生する動植物性残渣、廃プラスチック類、および排水処理時に発生する脱水汚泥が主な廃棄物である。また、施設の老朽化等により発生する金属くず、ガラスくずがある。

また、動植物性残渣は肥料製造業者へ委託処理する。その他、脱水汚泥、廃プラスチック類、金属くず、ガラスくずは外部へ委託処理している。

令和 7 年度の目標値は、生産重量の 減少 を踏まえて定めた。さらに、廃棄物の排出の抑制の取り組みとして脱水汚泥の発生量を抑制すべく排水処理での凝集剤注入の適正化、脱水機管理の徹底を行い、脱水率の向上を図り発生量の減少に努める。また、歩留りの向上、製品ロスの低減に努め、食品廃棄物を減らす。

## 6. 産業廃棄物の分別に関する事項

分別に関しては、工程毎に発生した廃棄物を、しっかりと区分保管する。当工場では、発生する廃棄物のリサイクルを促進するうえでも重要であるため、しっかりと行う。

## 7. 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

動物系固形不要物は全量飼料会社に販売している。そのため、産業廃棄物の対象外とした。

## 8. 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

動物系固形不要物は全量飼料会社に販売している。そのため、産業廃棄物の対象外とした。

## 9. 自ら行う産業廃棄物の埋立処分または海洋投入処分に関する事項

自ら埋立処分または海洋投入処分は行っていない。また、今後行う予定はない。

## 10. 産業廃棄物の処分の委託に関する事項

表 10-1 処分を委託した・委託する予定の産業廃棄物量

廃棄物の種類	委託処理実績(令和 6 年度) t/年	委託処理目標(令和 7 年度) t/年
脱水汚泥	530.7	480.8
動植物性残渣	5.4	4.9
廃プラスチック類	38.2	34.6
金属くず	6.2	5.6
ガラスくず	0.4	0.4
合計	580.9	526.3

### (1) うち優良認定処理業者への委託

優良認定処理業者への処理の委託は行っていない。今年度も予定は無いが、委託を検討する。

### (2) うち再生利用業者への委託

表 10-2 再生利用業者への委託廃棄物量

廃棄物の種類	委託処理実績(令和 6 年度) t/年	委託処理目標(令和 7 年度) t/年
脱水汚泥	530.7	480.8
動植物性残渣	5.4	4.9
廃プラスチック類	38.2	34.6
金属くず	6.2	5.6
ガラスくず	0.4	0.4
合計	580.9	526.3

動植物性残渣は肥料製造業者へ、脱水汚泥、廃プラスチック類、金属くず、ガラスくずは再生利用業者へ委託処理してきた。今後も継続予定である。

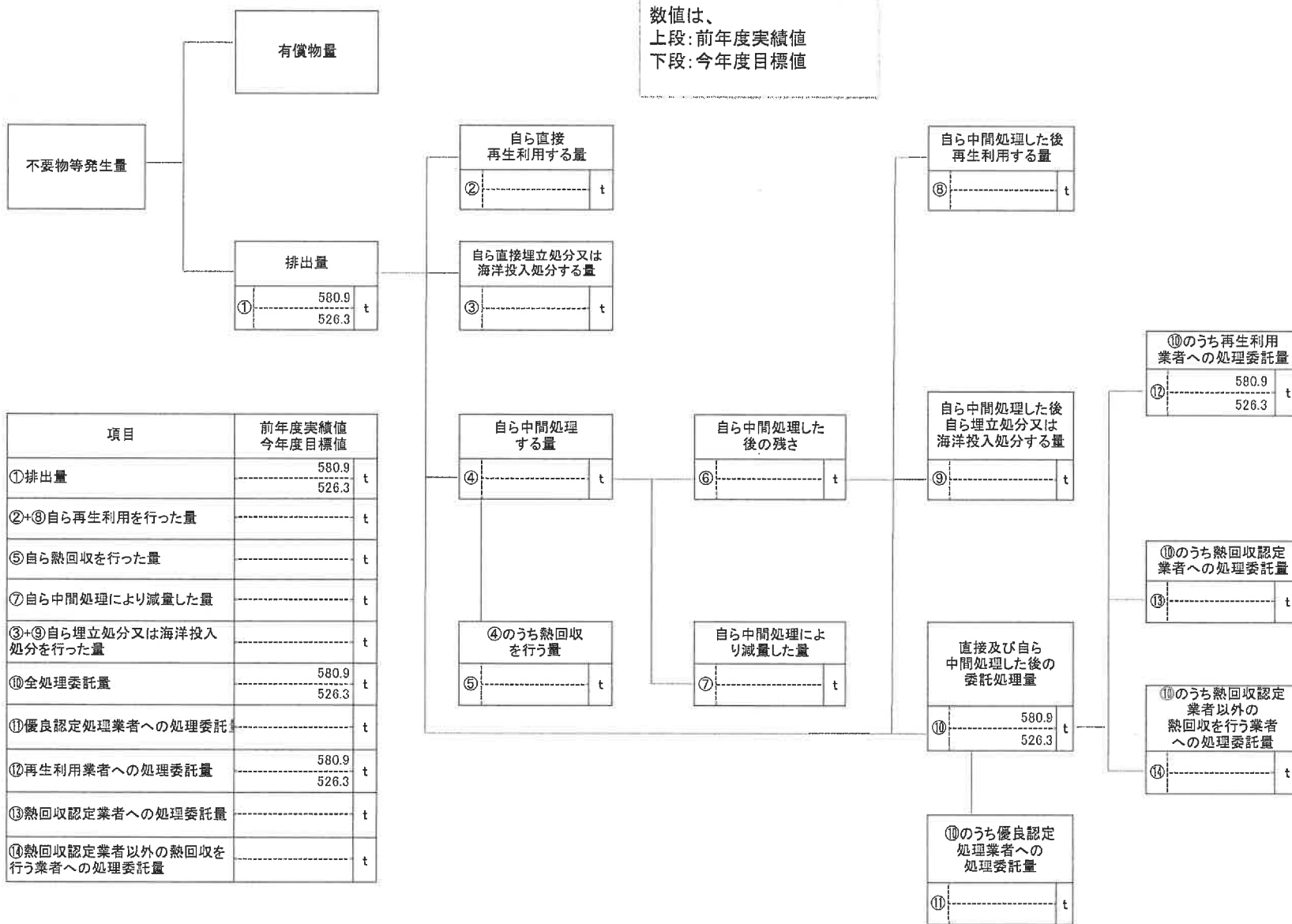
### (3) うち熱回収を行う業者への委託(焼却)

熱回収を行う業者への処理の委託は行っていない。今年度も予定はないが、委託を検討する。

【別紙】今年度の計画

(産業廃棄物の種類: 全体)

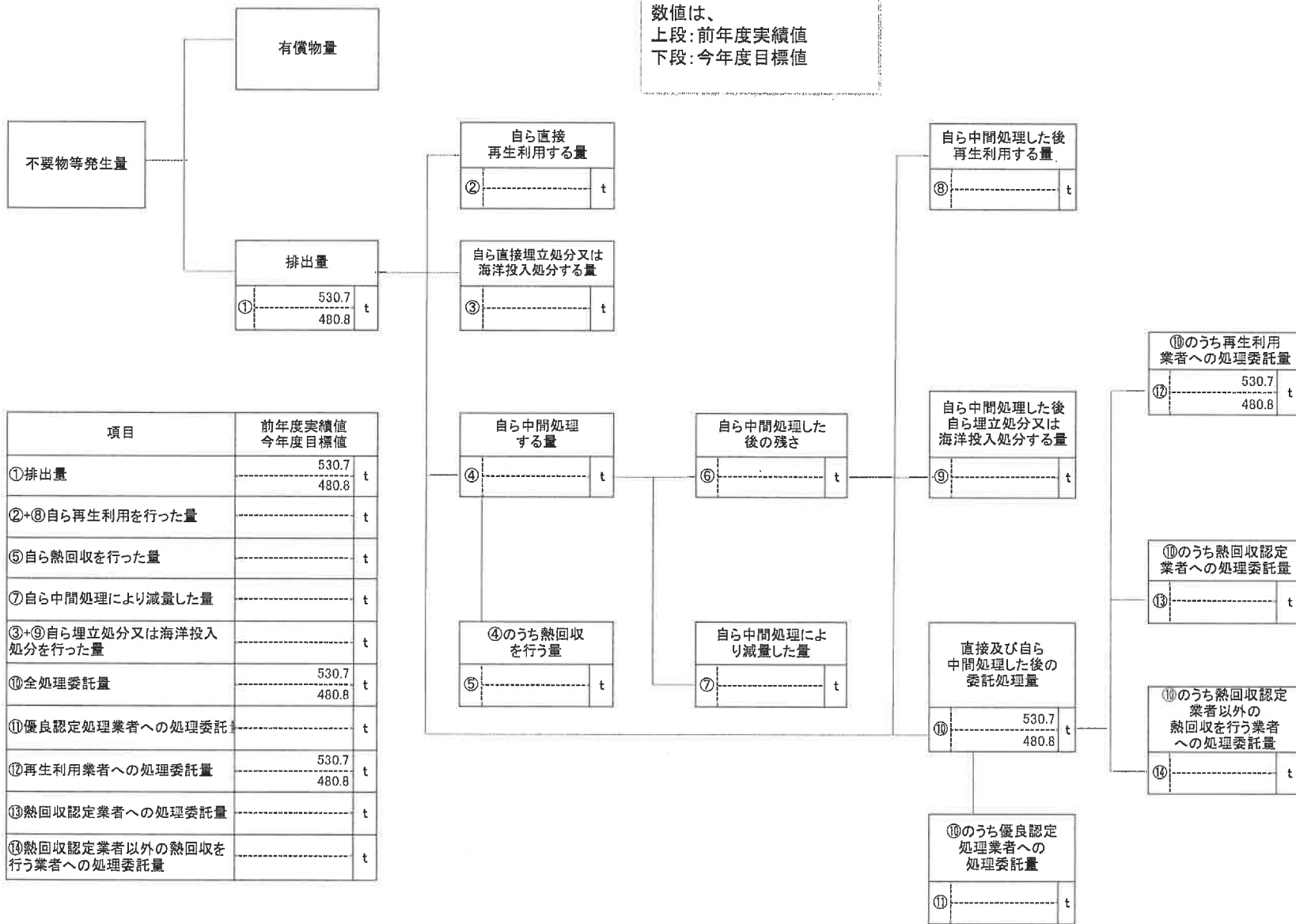
数値は、  
上段: 前年度実績値  
下段: 今年度目標値



【別紙】今年度の計画

(産業廃棄物の種類: 汚泥)

数値は、  
上段: 前年度実績値  
下段: 今年度目標値

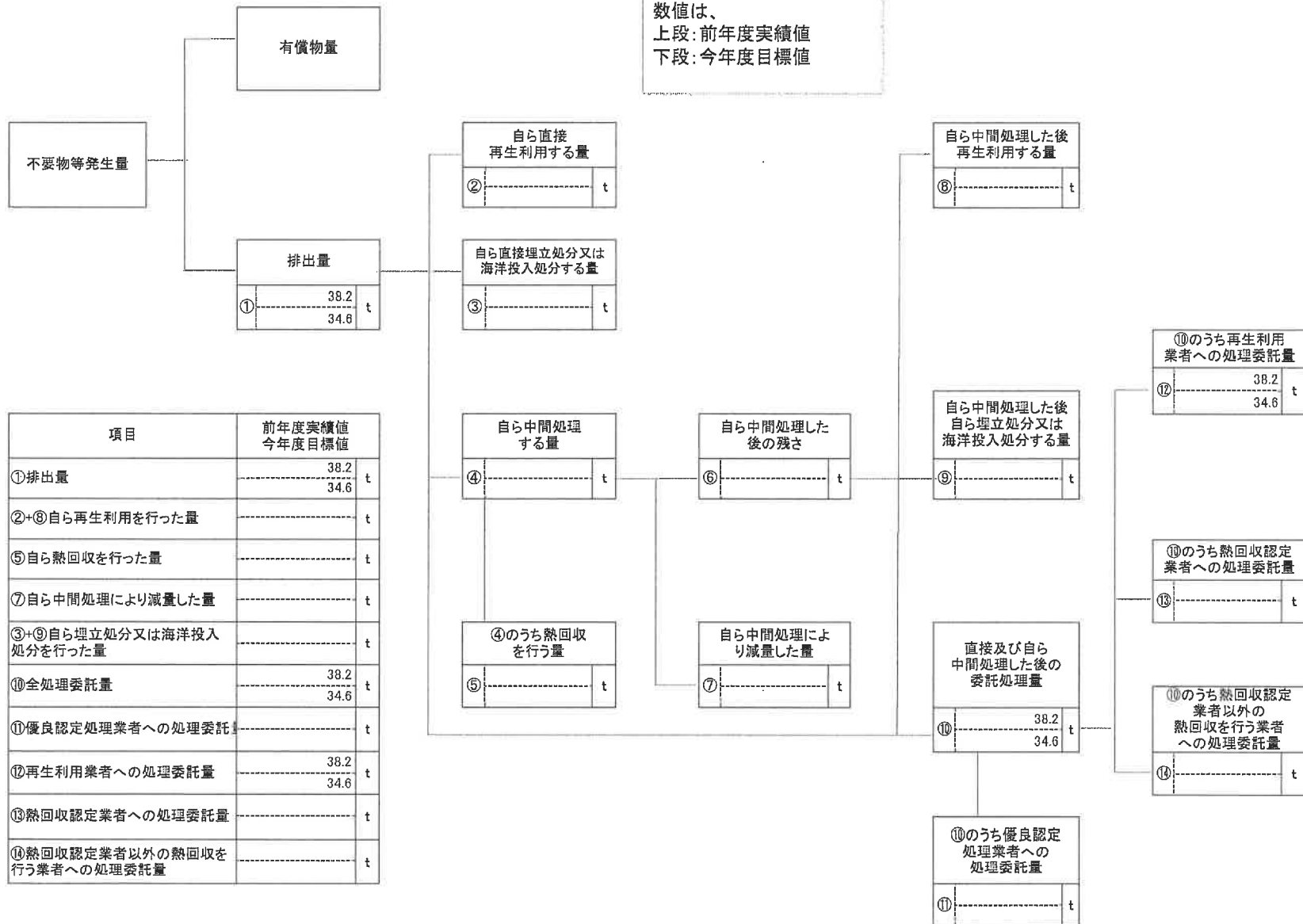


【別紙】今年度の計画

(産業廃棄物の種類: 廃プラスチック類)

)

数値は、  
上段: 前年度実績値  
下段: 今年度目標値

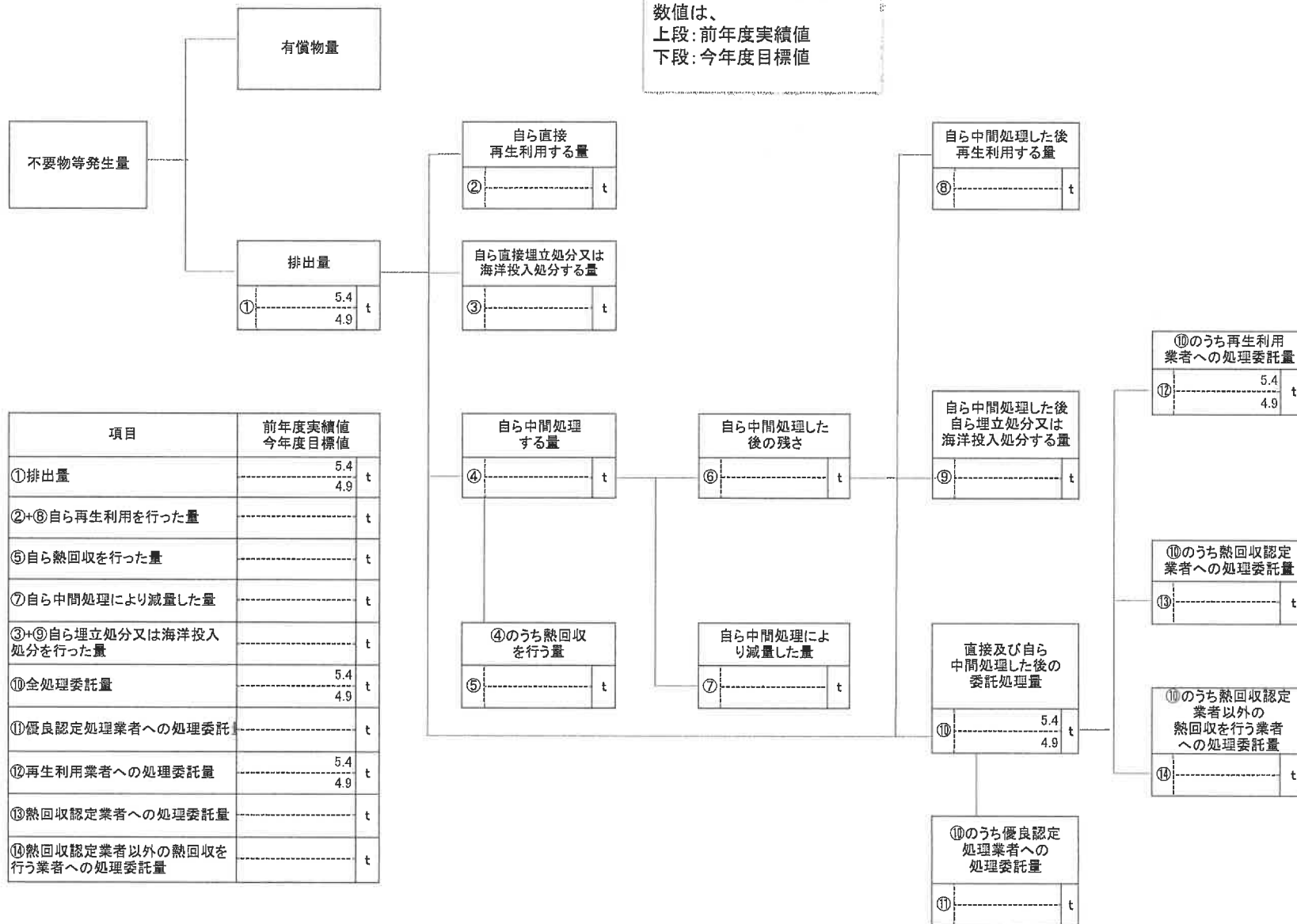


【別紙】今年度の計画

(産業廃棄物の種類: 動物性残渣)

)

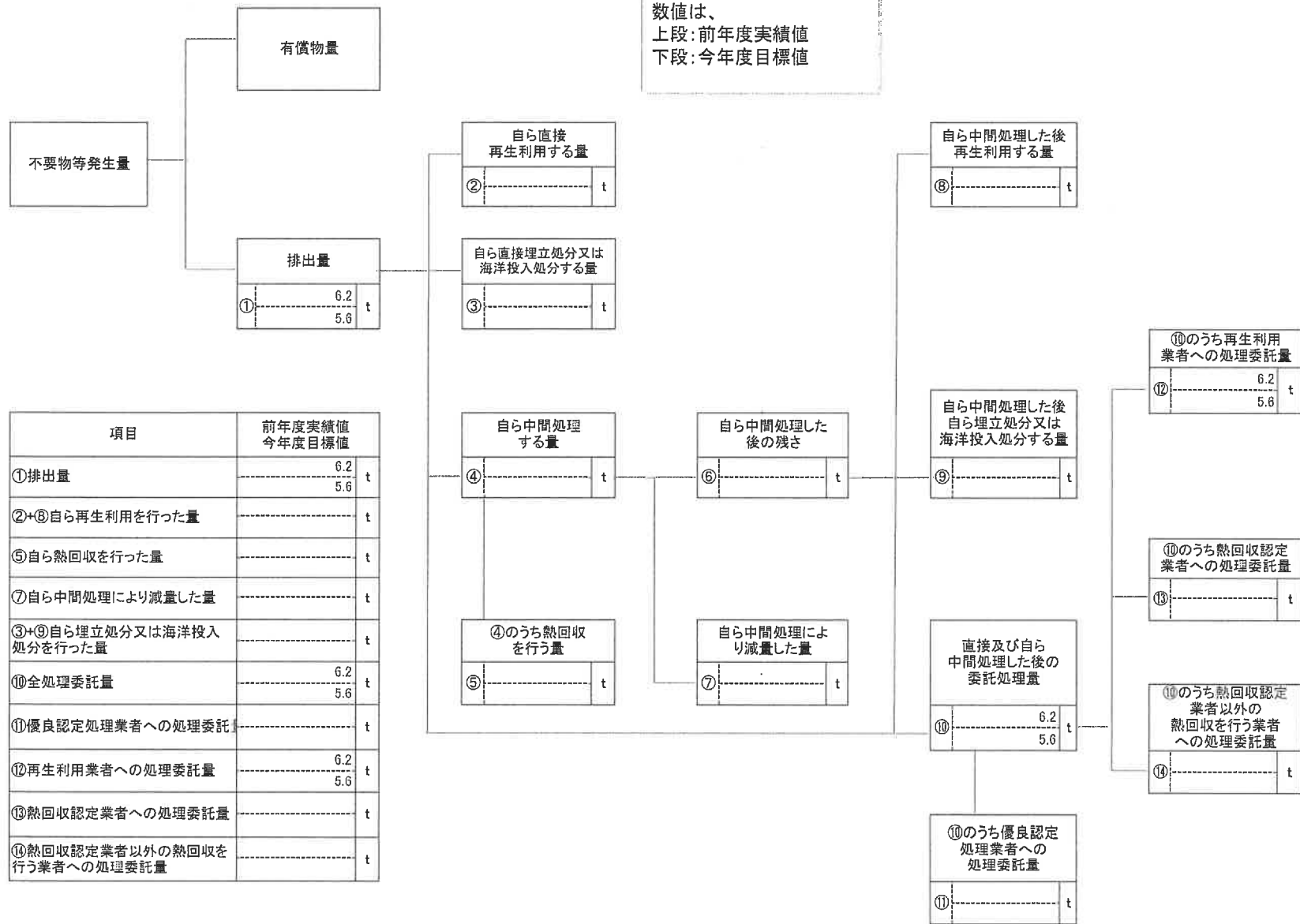
数値は、  
上段: 前年度実績値  
下段: 今年度目標値



【別紙】今年度の計画

(産業廃棄物の種類: 金属くず)

数値は、  
上段: 前年度実績値  
下段: 今年度目標値



【別紙】今年度の計画

(産業廃棄物の種類: ガラスくず)

数値は、  
上段: 前年度実績値  
下段: 今年度目標値

